

2024 年度第 2 回支部集会【北海道支部】

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：北見工業大学

- 日 時：2024 年 8 月 31 日(土)13:30～17:00 (受付開始 13:00)
- 会 場：北見工業大学(〒090-8507 北海道北見市公園町 165 番地)
- アクセス：女満別空港から連絡バスを利用して 40 分、「工業大学入口」で下車
JR 北見駅からバスを利用して 10 分(「工業大学入口」、「工業大学」、「工業大学正門」で下車) <https://www.kitami-it.ac.jp/>
- 参加費：500 円(マイページより事前参加登録時に支払い) 定員：50 名
- 対 象：日本語教育に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。
- 申込締切：2024 年 8 月 23 日(金)23:59 (定員に達した場合は、締切日以前に締め切ります。
会場に余裕があれば当日参加も受け付けます)
- 申込方法：[日本語教育学会マイページ](#) から事前参加登録をお願いいたします。
- 問 合 先：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会
E-mail: shibu@nkg.or.jp TEL: 03-3262-4291(平日 9～18 時のみ)

◆支部集会日程◆

13:00	受付開始	【1 階 アトリウム】
13:25-13:30	開会挨拶	【1 階 アトリウム】
13:30-16:00	講演・意見交換会 「変わりゆく外国人労働者の受入れ制度と北海道のいま」 オホーツク地域の技能実習生について	【1 階 A102 室】
16:00-17:30	ポスター発表(1 件)・交流ひろば(6 件)	【1 階 アトリウム】
17:30-17:35	閉会挨拶	【1 階 アトリウム】

開会挨拶

【13:25-13:30／1 階アトリウム】

講演・意見交換会

【13:30-16:00／1 階 A102 室】

【講演】 13:30-14:30

「変わりゆく外国人労働者の受入れ制度と北海道のいま」

北海学園大学 経済学部教授 宮入 隆氏

【発表・意見交換会】 14:30-16:00

オホーツク地域の技能実習生について

- ・技能実習生からの話
- ・実習生の日本語研修機関からの話

あけぼの成田国際研修センター 空 佐知子氏、熊澤 なおみ氏

- ・実習生の受入れ機関からの話

東亜総研(東亜人材・北見) 長澤 薫氏

ポスター発表

【16:00-17:30 / 1階 アトリウム】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム 4 ページ。詳細は予稿集原稿をご覧ください。

① **「わかりやすさ」を意識した中級レベル日本語学習者の口頭発表に
対する日本語母語話者の評価実態**

永射紀子(国際医療福祉大学)

交流ひろば

【16:00-17:30 1階 / アトリウム】

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。

「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

① **筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点の紹介** **【1階 アトリウム】**

伊藤秀明(筑波大学)

筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点では、日本語教育のための学習コンテンツやツールを公開しています。2023 年度に公開したコンテンツの使い方の紹介を中心に、現場での活用法や今後の協力などについて一緒に考えていきたいと考えています。使い方を知りたいなども含めて興味のある方はぜひお越しください。

② **日本語中級レベルの大学院留学生の就職** **【1階 アトリウム】**

—就職活動経験者 2 名へのインタビューから—

石川朋子・山路奈保子・上野まり子(九州工業大学)

中級レベルの日本語能力で就職活動を経験した大学院留学生 2 名に対して行ったインタビュー調査について報告します。日本語学習者に対する就職支援は上級レベル向けであることが多いですが、中級レベルで日本での就業を望む者にどのような指導が可能か、今回の調査対象者の回答を参考にみなさんと一緒に考えたいと思います。

③ 日本語学習者のジグソー学習時の相互行為 **【1階 アトリウム】**
濱多風子(北海道大学)

ジグソー学習時の相互行為を研究しています。ジグソー法とはアクティブラーニングの一形態です。学習者同士の会話を分析し、意見変容のプロセスと学習者間の日本語のレベル差の影響を明らかにしたいと考えています。グループワーク、話し合い、アクティブラーニング等について関心のある方はぜひお越しください。

④ オホーツクに住む外国人への日本語支援(現場の実践活動紹介) **【1階 アトリウム】**
久保比呂美(北見工業大学)、伊藤悠紀子(「いろはの会」)他

オホーツクの外国人に対して日本語支援をしているグループの実践紹介です。他の地域で同じような活動をしている方々と、情報共有や意見交換ができれば嬉しいです。興味のある方はぜひお越しください。

⑤ 多読を促進する取り組みと多読授業 **【1階 アトリウム】**
長野真澄(岡山大学)

出展者は多読活動が日本語学習者に与える影響を検討しながら、多読授業の改善を目指しています。出展では、多読授業の実践を紹介するとともに、多読を促進するための取り組みやアセスメントの在り方について、意見交換ができればと考えています。皆様と多読について幅広くお話しできると嬉しいです。

⑥ 多様な日本語レベルの学生が参加する国際共修授業の設計 **【1階 アトリウム】**
今泉智子(山形大学)

日本語初級後半～上級レベルの留学生と国内学生を対象とした国際共修授業を実施しています。様々なレベルの日本語話者が、日本語でコミュニケーションすることを通して、異文化間能力を高めることを目的としています。初・中級レベルの留学生でも日本語で参加可能な共修授業の設計について、意見交換をしたいと思います。

閉会挨拶

【17:30-17:35/1階アトリウム】

[2024 年度第 2 回支部集会(北見工業大学, 2024.8.31) ポスター発表]

「わかりやすさ」を意識した中級レベル日本語学習者の口頭発表に対する日本語母語話者の評価実態

永射紀子

本研究では、一般の日本語母語話者である日本人学生が、日本語学習者である留学生の日本語を、聞き手としてどのように評価するのかを明らかにすること目的とする。A 大学医学部 1 年の日本人学生 12 名と B 大学医学部 1 年の留学生 15 名とのオンライン交流授業で、「聞き手にわかりやすく伝える」ことを目標にした口頭発表を行い、日本語母語話者である日本人学生に「わかりやすさ」の観点から記述で評価してもらった。収集した記述回答は、KH Coder を用いて特徴語および共起ネットワークで分析した。その結果、内容に関することは高い割合で好意的に評価しており、否定的な評価はほとんどないことがわかった。また、留学生の発表に何か疑問を持った場合でも、文脈等から積極的に推測し理解につなげている様子がうかがえた。一方で、「わかりにくい」や「聞き取りにくい」などの言葉も評価に表れており、それらの殆どが発音に関する事柄に集中していることがわかった。

(永射一国際医療福祉大学)